

市民の大きな世論で 公民館を存続をさせましょう

5月16日、公民館の廃止を前程とした南部公民館の説明会が開かれ、教育委員会から社会教育スポーツ課長が、また子育て支援部から部長と課長、かがやきライフ推進部から部長とまちづくり推進課長が出席しました。また地元議員として林新太郎議員と石田仁議員が出席されていました。はじめに、10月1日から子育て支援センターを開設すること、また1階の会議室を事務室・相談室として子育て支援センターの専用スペースとし、それ以外の施設は貸し出し施設として利用料金をとるといった説明がありました。出席者から様々な意見や質問が出ました。その一部の再現です。 市議会議員 笹田トヨ子

年間9万人が利用する 地域が作った公民館

利用者:公民館の廃止の理由は何か？なぜ教育委員会管轄の公民館を廃止して、市長部局に渡したのか。

林議員:公民館ができた30年前、当時は青年つどい協の会長をしていたときから関わり、今では9万人の人が利用している。まさに地域の人が作ってきた公民館だ。行革の一環なのか、事業仕分けか、第5次総でも生涯学習の充実をうたっているのになぜ公民館を廃止するのか？

社会教育スポーツ課長:57年から61年にかけて社会教育・生涯学習の必要性でブロック単位に公民館ができた。その後、より地域に密着した形で地区センター建設を行い、16の地区センターができ、地域住民の自主運営で行われている。公民館は教育委員会、地区センターは地域住民の自主組織と管理形態は異なるが、限られた財源のなかで施設を活用したい。

笹田議員:昨年9月、市長から公民館の廃止案が出され、社会教育委員会および公民館運営審議会を非公開にして、公民館の廃止を決めたときいている。教育施設の用途変更は教育委員会で決めると聞いていたが議事録を見ても議題にあがって

いない。議会でも全く審議されておらず、廃止を前程とした説明会はおかしい。

利用者:3月の説明会では子育て支援センターが来るといことだったが議会でできなかったことか？

利用者:音楽サークルで利用しているが、大きな楽器を置かせてもらっている。今後はどうなるか心配。有料になると会費を1.5倍に値上げをしないとやっていけない。

利用者:高齢者が多いサークルで、今まで1階の会議室を使っていたが2階になると荷物が多いので階段の昇り降りがたいへん。

利用者:南部公民館でないといけない人がたくさんいる。スイトピアは駐車料金が200円もかかる。無料だから活動ができる。

石田議員:子育て支援センターが来るから公民館を廃止するのか、公民館を廃止するから子育て支援センターができるのか？

利用者:子育て支援センターになると、貸し館部分も子育て支援センターが優先となり、いずれは追い出されるのでは。公民館と子育て支援センターの併設にしてはどうか。

課長:地区センターを整備してきたので公民館を廃止する、これが教育委員会の検討結果です。

利用者:公民館はまだ生きているのですか？

部長:公民館の廃止はまだ決まっていない。6月議会に公民館設置条例の一部改正案をだす。

公民館廃止は教育委員会の自殺行為 市議会議員 笹田トヨ子

出席者の「公民館はまだ生きているのですか」という発言はたいへん印象的でした。南部公民館に対し愛着をもって利用してきた人々に対し、秘密裏に公民館廃止をすすめてきた市当局のやり方に怒りを覚えます。

この説明会で、公民館廃止について地域住民や利用者の人々を納得させるだけの根拠は何も示されませんでした。地区センターが16施設整備されたからといっても、9万人の利用者がいる公民館活動の実績を無視することはできません。そして、核家族化や高齢化が進み、多様な価値観や社会が複雑化する中でますます社会教育の場の必要性は増すばかりではないでしょうか。

公民館の設置基準では、館長とともに社会教育主事を置かなければなりません。今まで教育職の人を充ててその役割を果たしてきました。公民館を廃止するとその基準もなくなり、社会教育的視点で地域づくりをしていく拠点がなくなります。公民館の廃止を決めた教育委員会はその社会教育の責任を放棄した自殺行為です。

公民館を存続させ、大垣市が真に子育て日本一になるためにも、大人の教育（社会教育）の更なる充実が必要なのではないでしょうか。

今、6月議会に向けて「公民館の存続を求める」請願署名を利用者の皆さんと共に取り組んでいます。

公民館の存続求めて共に頑張りましょう。